

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2375701113
法人名	医療法人 聖会
事業所名	グループホーム 石川
所在地	知多郡武豊町二ヶ崎一丁目3番地 (電話) 0569-73-7888

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価確定日	平成19年10月24日

【情報提供票より】(平成19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年10月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	26 人 常勤 18人, 非常勤 8人, 常勤換算 3.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,680 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(60,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	10名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	100 歳
協力医療機関名	石川病院・あだち歯科医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは武豊の街中の住宅街の一角にあり、ホーム前の川には鯉やたくさんの亀が泳いでおり、散歩の道行きには人々の目を引きつけ楽しめる環境がある。ホームは地元の医療法人の経営で知名度は高く、健康管理の面で安心がある。また、重度化や終末期に向けても医療の連携があり心強い。本人や家族に添い居心地のよい場所にしたいという思いの職員の元で入居者はゆったりと生活しており地域の人から声をかけてもらう場面も増えてきている。家族の訪問も多く、訪問時には職員が入居者の暮らしぶりや心身状況を話し、入居者毎にアルバムを作って行事の際の写真なども見てもらったり、家族の意見や要望も聞いたりしている。家族アンケートの結果から良好な関係がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果や家族アンケート結果を基に食事のメニューを冷蔵庫に貼って明示するように改善したり、職員のストレス対策や感染症マニュアルを整備する等改善に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や外部評価を通し、サービスの質について職員の意識が上がった。今回の自己評価は全職員が取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は今年の2月より、入居者、家族、武豊町福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地区副区長、地区評議委員の参加のもと2カ月に1回開催している。会議では、ホームの現状報告や検討課題等について議題にあげ、メンバーから積極的に質問や意見、助言がある。今回の外部評価についても説明している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	今回実施された家族アンケートの結果については、職員に回覧した。家族の意見を真摯に受け止め、会議で話し合い、改善に向け取り組んでいく予定である。家族の来訪時に意見や要望を言ってもらえるよう雰囲気づくりを大切に、内容に応じてホームとしてできること、できないことについて説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して地区の夏祭りに参加したり、清掃活動には入居者と共に参加している。回覧板を入居者と職員と一緒に近所に回しており、地域の人から声をかけてもらう場面も増えてきている。小学校6年生の総合学習の受け入れをしたり、職員のこども達との交流もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人生の先輩として尊敬の気持ちで接し、自尊心を傷つけないよう援助します。入居者一人一人と向き合い、その家族とも安心と信頼に向けた関係作りをします。家庭的な環境と地域住民との交流の下でその人らしい暮らしを続ける為の援助をします。」を理念とし、「介護の基本」「グループホーム石川の心」と共に玄関に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に斉唱して共有認識している。理念に基づき、介護のあり方など具体的な目標を立て、言葉として覚えるだけでなく、実践できるよう職員は常日頃のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して地区の夏祭りに参加したり、清掃活動には入居者と共に参加している。回覧板を入居者と職員と一緒に近所に回しており、地域の人から声をかけてもらう場面も増えてきている。小学校6年生の総合学習の受け入れをしたり、職員のこども達との交流もある。		地域の一員として地元の活動や地域の人々との参加交流はあるもののホームへの積極的な呼びかけを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を通し、サービスの質について職員の意識が上がった。今回の自己評価は全職員が取り組んだ。前回の評価結果や家族アンケート結果を基に食事のメニューを冷蔵庫に貼って明示するように改善したり、職員のストレス対策や感染症マニュアルを整備する等改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は今年の2月より、入居者、家族、武豊町福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地区副区長、地区評議委員の参加のもと2カ月に1回開催している。会議では、ホームの現状報告や検討課題等について議題にあげ、メンバーから積極的に質問や意見、助言がある。今回の外部評価についても説明している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月町内の事業所との会議があり、町の福祉課も参加し情報交換している。また、役場が近くこまめに顔を出してホームの実情や取り組みを報告し、情報交換している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問は多く、訪問時には職員が入居者の暮らしぶりや心身状況を話し、家族の意見や要望も聞いている。家族の状況に応じて、電話やFAXで報告や依頼することもある。入居者毎にアルバムを作っており、行事の際の写真など家族の来訪時に見てもらっている。家族アンケートの結果から良好な関係がうかがえる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今回実施された家族アンケートの結果については、職員に回覧した。家族の意見を真摯に受け止め、会議で話し合い、改善に向け取り組んでいく予定である。家族の来訪時に意見や要望を言ってもらえるよう雰囲気づくりを大切に、内容に応じてホームとしてできること、できないことについて説明している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内による管理者の異動はあるが介護職員の異動は少ない。管理者の異動の場合は入居者、家族にきちんと説明している。職員の交代による入居者のダメージを防ぐため、新人職員はまず入居者を把握することから始め、ベテラン職員が付き添いスムーズに移行できるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1回、母体の病院で勉強会を行っており、1~2名の職員が参加している。外部研修として、知多中南部在宅介護サービス事業者連絡会の勉強会に正職員、パート職員に関わらず参加できるようにしている。研修受講後は、レポートを書き連絡ノートに挟み、情報の共有を図っている。管理者は職員の資格取得を積極的に支援していこうと考えている。		研修や勉強会の機会を設けているが、パート職員は時間的制約もあり参加が難しい。受講者のレポートを確認し情報の共有を図っているが、パート職員も参加できるよう今後の取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に加入している。知多中南部在宅介護サービス事業者連絡会には職員も参加している。また、同法人のグループホームとは行事を通して交流し情報交換している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み後、家族や担当のケアマネジャーから入居者のADL(日常生活動作)や介護状況などの情報を収集している。問題点を把握、検討し、入居して本人が不安や不都合のないよう配慮している。入居前には体験入居を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として敬い、生活の知恵や戦争の体験談などから学ぶことも多い。入居者同士も声をかけ合い、共に支え合う関係ができている。入居者、家族にとって安心できる場所でありたいと考え、日常の会話を大切に、その人らしく過ごしてもらえよう無理強いせず本人の自発性を促すよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の日常会話から本人の思いや意向を把握し、情報を共有しながら、その人らしい生活が実現できるよう支援している。入居者から喫茶店で行われる演奏会に行きたい、映画を見たいという希望が出れば、できる限り対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに基づき、入居者や家族の意向を反映した介護計画が作成されている。入居者には担当職員がついており、様子を細かく観察している。また、日々の申し送りや会議にて他の職員から情報を得ると、サービス担当者会議で意見をあげ介護計画に反映させている。家族の訪問時に入居者本人も交えながら説明し、意見を聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間は6カ月としている。毎月担当職員が計画に対する達成状況とADL(日常生活動作)についてチェックしている。モニタリング様式は、毎月の状態が時系列でわかるようになっている。状態に変化が生じた場合は、計画について話し合い、新しい計画書を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、医師、看護師による訪問診療が週5日あり、入居者は2週間に1回診てもらっている。協力病院にある科を受診する場合は、ホームで通院介助を支援している。家族には電話、手紙、FAX等で内容を伝えたり、検査について報告している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診に関しては、入居時に家族に確認しており、ホームの協力病院の他、入居前の本人のかかりつけ医に受診することが可能である。その場合の通院介助は家族にお願いしている。協力病院による訪問診療が2週間に1回行われている。歯科医の往診も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「事前指定書」にて病院受診や終末期、急変時等の対応について本人、家族の希望を確認している。会議の中で職員とホームとしての方針について話し合っている。協力病院との連携も図られており、本人や家族、職員の安心につながっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や個人情報の取り扱いについては文書化され、職員に配布されている。プライバシーの確保は当然のこととして徹底しており、職員は入居者一人ひとりの尊厳を大切に、言葉かけは優しく、丁寧に対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンや好みを職員は把握し、本人が自己決定できるよう支援している。居室にいる時間が長い入居者には、様子を見ながらレクリエーションへの参加等、声かけをしている。その人らしい暮らしを支援するため、入居者とのコミュニケーションを大切に、本人の思いを聞き取り、受け止めることで信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望も聞きながら栄養士がたてている。外食することもある。食事の準備や片付け等は、入居者に自発的に行ってもらえるような雰囲気づくりをしており、朝食時に行くことが多い。日中は職員の人数もあり、準備や片付けを行う入居者は少ない。		朝食時だけではなく、可能な限り入居者に参加してもらえるよう、取り組みに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は各ユニット曜日が決まっているが、入居者の希望に応じて入浴できるよう支援している。入浴を楽しんでもらえるよう、沐浴剤を使用したり、菖蒲湯やゆず湯等、季節感も大切にしている。拒否をされる人には、職員がタイミングを見ながら声かけをして対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節毎の行事や外食、入居者本人の趣味を継続してもらえるよう支援している。夏に行った流しそうめんは入居者に好評で、あまり積極的でない人が積極的になったという一面を発見した。ケーキや和菓子等、お菓子作りを2階ではよく行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援については、入居者によって偏りがないよう声かけをしている。散歩や食材の買出し等、週3回程度は外に出るよう支援している。玄関先で趣味の絵を描いたり、畑の草取り等自由に外に出ることができる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを認識し、日中は施錠していない。入居時に家族から施錠の要望が出ることもあるが、その都度説明し理解してもらっている。運営推進会議の中でも話が上がり、ホームの方針を伝えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、夜間、昼間を想定し避難訓練を実施している。消防署の協力を得て消火訓練も行った。運営推進会議がきっかけとなり、災害マニュアルを作成し、会議で報告し家族にも渡している。備蓄品については、3日分用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況を毎日記録し、職員が共有している。献立は栄養士がたてており、1日1,400kcalとし、水分は1,000cc摂取することを目安にしている。入居者の状態に応じて細かく刻んで提供している。毎月体重測定を行い、健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂キッチンスペースが広く、車椅子でも生活しやすい環境設備になっている。浴室、トイレ、廊下、居間等、要所に手すりが設置されている。入居者の作品である絵がリビングや廊下に掲示されている。共用空間は掃除が行き届いており、異臭や不快な音はない。玄関前には、テーブルやベンチが設置され、外で過ごすこともできる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人のプライベート空間として、自由に装飾してもらっている。本人の使い慣れた生活用品、小物等が持ち込まれており、趣味の道具や材料、作品、家族の写真、植物等、その人に合った居心地の良い環境づくりがされている。居室前に転倒防止のため、テープで表示している人もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。